映画と、言葉と、桶川暮らしのこと

広田智大さん／映画監督

ひろた・ともひろ　1992年桶川生まれ。多摩美術大学卒。青山真治監督のもとで映画に触れる。桶川市内等で撮影した初の長編映画『朝の火』が、SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2024国内コンペティション長編部門ノミネート。今冬都内にて劇場公開予定。カメラマン、エディターとしても活動中。桶川市在住。

向坂くじらさん／詩人

さきさか・くじら　1994年名古屋生まれ。慶応義塾大学卒。詩人、国語教室ことば舎代表。Gt.クマガイユウヤとのユニット「Anti-Trench」で朗読を担当。2022年第一詩集、2023年初エッセイ集を刊行。2024年、初小説『いなくなくならなくならないで』が芥川賞候補作。桶川市在住。

いま注目のクリエイターが、桶川市に暮らしています。今年、初小説が芥川賞候補となり、国語教室代表など多彩に活躍する向坂くじらさんと、市内で撮影した監督映画が年内に劇場公開予定の広田智大さんです。同世代のおふたりに、あれこれ語っていただきました。

―向坂さんの話題の著作、広田さんはもう読まれたそうですね。

広田　桶川市のSNSで知って、読みました。ふだんは本を全然読まなくて、大学時代に読んだ太宰治以来かな。

向坂　ありがとうございます。太宰なんて、超クラシカルですね。

広田　向坂さんの本はとても面白くて、3冊すぐ読めてしまいました。特にエッセイって、映画でいうドキュメンタリーのような鋭さがあって、恐ろしいなと思いました。エッセイの中で、向坂さんがよく泣くんです。最初は本気で心配していたんですけど。

向坂　やさしい（笑）

広田　今日ここへ来るとき、駅西口公園の健康遊具にぶら下がっている若い人を横目に、こういう風景が桶川のいいところだなぁ、なんて思っていたら、その人が向坂さんで。くじらが棒にぶら下がっていた……。

向坂　案外ぶら下がっていられなくて、ショックを受けたんです（笑）。

広田　国語教室もやられているんですよね。

向坂　もともと国語の講師と、詩の講座の両方をやっていましたが、ちょっとずつ違うことを言っているのが気にかかって。矛盾しない形でやりたかった。あと、詩の講座の子たちは1回会ってそれきりだったので、毎週会ってひとつの場所でやることに意味があるのかなと。そこへ夫の縁があって桶川の家に暮らすことになり、ここに根を下ろそうと、塾を開いてみた形です。

―子どもを通じて桶川を知ることも？

向坂　子どもたちのすごくローカルな噂話を聞くのは楽しいです。あの家の子とその家の子が付き合っているよとか（笑）。桶川を知ることになるかはわかりませんが…。

―広田さんが桶川で映画を撮影した経緯を教えてください。

広田　大学で映画を学び、卒業後、広告の仕事などもしましたが、とにかく、自分の撮りたい映画を世にひとつ残そう、と動き出しました。頭に浮かんだのが、自分が見てきた地元・桶川の風景。桶川市フィルムコミッションに相談したら、親身になって、下見や撮影にもついてきてくださって。ありがたかったです。

―撮ったのが2019年で、ことし公開。

広田　作品を撮ることが自分のバランス

を整える方法でもあったのですが、撮り終わってすぐコロナ禍になってしまい、公開は今じゃないなと。そうこうしている内に結婚や、就職、子どもが生まれ、気が付いたら映画の口ケ地でもある桶川に帰ってきていたんです。そうした過程を経て、ようやく公開したいと思えるようになりました。

向坂　私も映画を拝見しました。小説なら視点を線で動かせばいいけど、映画はスクリーンのどこに目をやればいいのか分からない。音もあるし、意識の行く先がたくさんあって、難しいという印象を持っているんです。詩も難しいと言われがちで、目線の動きが簡単でも、内容がわからない、と。でも、それも含めて見るしかなかろう、と思っています。

広田　主演俳優は、僕の親友にお願いしました。

向坂　主演の方の演技、すごくいいと思います。私はどうしても言葉に引き付けて考えてしまうのですが、「何か言おうとしているけど今じゃない顔」というか、体の中に何かある状態の無言と、ない状態の無言って違う。今ここで発されない言葉があって、ついにそのまま終わる、みたいな印象を受けました。

広田　撮影技師は、ふだん詩人でもあるんです。気づくとなぜか、僕の周りには詩人が多い。なので、詩人の向坂さんとの対談も、不思議な縁だなと思います。

向坂　詩人に会うのは初めてと言われることはあっても、その逆は初めて(笑)。

―広田さんは桶川出身ですが、一時期、桶川の外で暮らしていたんですよね？

広田　大学が遠くて、実家を出ましたね。1年前に桶川へ戻りましたが、10年たつと変わっていて。特に駅東口は、こんなに自転車置き場があったのかと…。

向坂　めっちゃありますよね。

―他にも、この10年で大きく変わったと感じるところはありますか？

広田　子どもが生まれ、見えるものが変わったのもあると思いますが、高齢の方が増えましたね。昔、マインにはおもちゃ屋さんやゲームセンター、映画館があって、子どもで埋め尽くされていました。自転車置き場が増えて、子どもたちは減った…(笑)。でも、子どもと散歩しているときに、話しかけてくれる人が多いのも感じています。子どもと都内に出かけても、話しかけてくる人はほとんどいませんが、桶川はとても多い。広島出身の妻がよく言うのは、人が近い。それが桶川のいいところだと。

向坂　私も引っ越してみて、人がやさしいなと思いますね。なんでしょう、閉鎖的なわけでもなく、ちょうどいい。積極的に共同体みたいなものに入らなくちゃいけないわけじゃないけど、顔を合わせていると親切にしてくれる人がたくさんいる。近所の方もそうだし、お店の方もそう。カフェとか、タコス屋さんとか、お気に入りのお店がいろいろあります。一言二言話す関係の方がいっぱいできたのが、すごくうれしいことだなと思います。道を歩いていると、立ち話している人が多くないですか？桶川って。

広田　多いですね(笑)

向坂　ばったり会って井戸端会議とか。犬を散歩したり、ベビーカー押したりしながら。

―おふたりは、どんな子どもでしたか？

向坂　私は名古屋で育って、本と動物が好きな子どもでした。その頃から将来は作家になりたいと思っていて、高校まで小説を書いていたんですけど、受験勉強があるから短歌にして、自由詩に移って。エッセイも書くようになって、今回、再び小説を書きました。

広田　子どもの頃、本は漫画雑誌1冊しか持っていなくて、それを3年間くらい読んでましたね(笑)。とにかくずっと外を走り回っているような子どもでした。

―シティプロモーションについてお聞きします。おふたりくらいの世代を対象に、魅力発信に取り組む自治体が増えていますが、どんな印象を受けますか。

向坂　プロモーションされていることを、そのまま信じることができない感覚が自然にあります。これは同世代で共有されている感覚ですね、のせられたくないというか。桶川のことはとても好きですけど、大きなものに自分を同一視する感覚があまりない。共同体への帰属意識が薄い世代かもしれません。

広田　僕は子どもができて桶川に戻り、まさに子育て世代そのものですが、プロモーションに感じるものは向坂さんと重なります。ただ、地域のために行動すること、マルシェとかで地元のお店を知ったりするのはいいことだと思います。

向坂　ご縁があって桶川に住み始めたら、結果的に良かった、ということですね。

―これからの桶川のイメージってありますか？もっとこうなったらいいな、など。

広田　マルシェなどのイベントは子どもと一緒に楽しめるのでたくさんやってほしいなと思います。あまり中に入るタイプではないけど、にぎわいを遠くから眺めているだけでも好きなんです。

向坂　今年初めて桶川祇園祭に行けて、楽しかったです。お神輿とか、すごく良かった。あと、さいたま文学館がもっと広く知られてほしいです。地元の方にも案外知られていない。詩の世界では、前橋には萩原朔太郎が、山口には中原中也がいて、賞やイベントを主催したりして、記念館が盛り上がっているんですよ。こんど講座をやるので楽しみです。

広田　あと、小さな映画館。いつも何か映画がかかっていて、みんなで観られる場所があったら、とても素敵ですね。

【さいたま文学館】向坂くじら先生の子ども向け創作講座開催予定！

と　き▼令和7年1月25日㈯ほか

問合せ▼さいたま文学館☎789－1515

桶川をもっと面白く！まちのにぎわいクリエイターズ

桶川で9周年！ハンドメイド作家が集結する「おけがわ手づくりマーケット」

おけてま代表
菅又春香さん・岩崎かおるさん

「おけてま」が継続できたのは、地域の皆様に大切にしていただけたから、と感謝しております。皆様への感謝の気持ちは、桶川市への寄付活動を通して形にしていければと思っております。

10/6(日)開催
午前10時～午後3時
会場：べに花ふるさと館

偶数月第1日曜日に定期開催している、人気のハンドメイドマーケットです。
桶川市でイベントを開催して丸9年を迎え、今回で56回目を数えます。
ハンドメイド作家を中心に、キッチンカーなども出店。品質と作家の人柄を重視する事前審査制とすることで、来場者から多くの支持を集めています。

個人店の有志から地域活性化！地元桶川発のこだわりマルシェ「だって」

だって実行委員会の皆さん
(中央が代表 加藤幹也さん)

桶川在住・桶川でお店を経営している6人で運営しています。イベント運営の素人ですが、桶川を盛り上げたい気持ちは人一倍！今後の活動チェックをよろしくお願いいたします。

10/14(月・祝)開催
午前10時～午後3時
会場：べに花ふるさと館

菓子店や飲食店などを個人で営む有志が集まり、桶川で楽しいことがしたい！みんなを応援したい！と昨年春にスタートしたマルシェイベント。
春と秋の年2回ペースで開催しています。地域のつながりや地産地消、経済・環境などに好循環をもたらすため、こだわりをもって活動中。

ママたちの活躍を応援！アットホームな雰囲気が魅力の「さかたマルシェ」

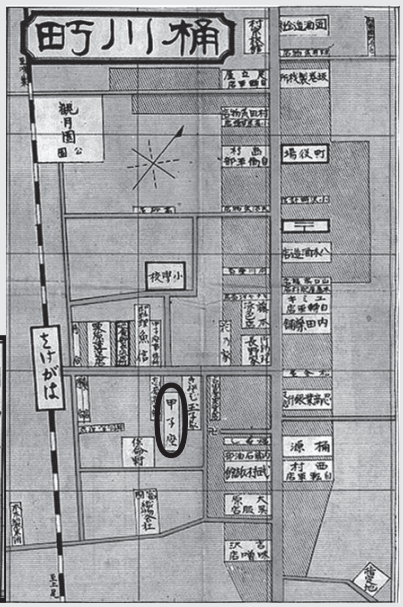
さかたマルシェ実行委員長
吉野尋美さん

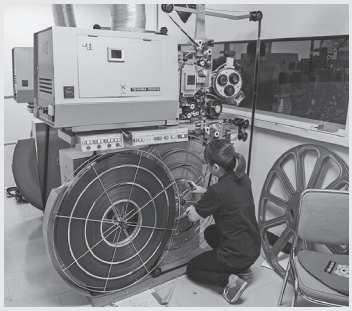
桶川生まれ､桶川育ちの2児の母。市内でリラクゼーションサロンを経営する傍ら、アクセサリー作家としても活動。「大好きな桶川でハンドメイドマルシェを!」と企画しました。

10/26(土)開催
午前10時～午後3時
会場：坂田コミュニティセンター

「ママたちに活躍の場を！」との思いで始まり、春夏秋など年に数回開催。
今では50人を超える多世代の作り手により、アットホームなハンドメイドマルシェへと成長しました。コミュニティセンターという利点をいかして、ステージイベントとコラボレーションするなど3世代で楽しめるマルシェです。

44歳当時の安藤鶴夫
写真提供：さいたま文学館





1988年の開館以来、市民に親しまれた「おけがわマインシアター」。2館体制のフィルム上映館だった。左下はオープン時のパンフレット

1924年（大正13年）当時の桶川町地図。桶川駅と中山道を結ぶ駅通り付近に、映画館や劇場として娯楽を提供した「甲子座」が見える

桶川は100年前からクリエイティブだった説

上の地図は今から100年前、1924年当時の桶川町中心部。今の駅通り裏に見えるのが、「甲子座」という劇場兼映画館です。甲子とは干支にちなむ年の呼び名で、甲子園球場の名称も1924年誕生によるもの。ひょっとしたら甲子座も、今年で100歳だったかもしれませんね。戦後は「南風座」と名を変え、1960年代まで地元の映画館として親しまれていたようです。

1945年からの約3年間を、桶川で過ごした有名なクリエイターがいました。小説家・演劇評論家の安藤鶴夫（1908－69）です。桶川では、中山道沿いに建物が残る旧武村旅館で原稿を書いていたそうです。短編小説「不二」には、当時の桶川が寒川町という名前で登場しています。その後、安藤はラジオやテレビでも活躍し、1963年に直木賞を受賞しています。

その四半世紀後の1988年、桶川に映画館が復活。「おけがわマインシアター」です。オープン当時のパンフレットを見ると、初日の上映作は「ランボー3」「敦煌」だったとか。貴重なフィルム上映館として愛されていましたが、2012年に閉館。その後も2015年まで、商工会などの支援を受けた市民団体「コミュニティシネマおけがわ」が、同館の映写機を使って上映会を開催しました。

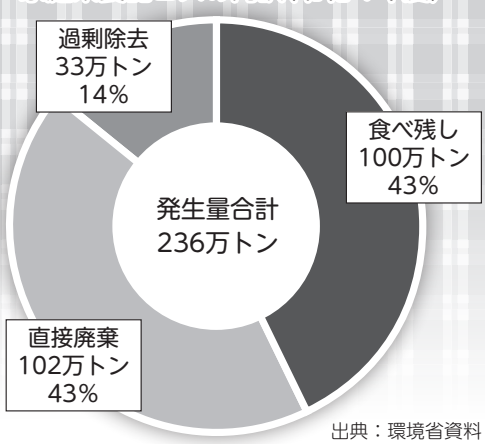
桶川のみんなが、桶川クリエイターズ！

ちょっとお出かけすれば、出会える場所がある。老若男女が、心待ちにする季節がある。
このまちには、彩り豊かな生活をつくり、楽しむ人がたくさんいます。
今までも、これからも、桶川で暮らすワクワクを大切に受け継ぎ、新しく紡いでゆきたい。
この特集を少しでも面白がってくれたら、あなたも桶川クリエイターのひとりです。

10月は「食品ロス削減月間」です

詳しくは➡環境対策推進課☎657-8884

家庭系食品ロスの内訳（令和４年度）



出典：環境省資料

※端数処理により合計と内訳の計が一致していません。

「食品ロス」ってなに？

食品ロスとは、食べられるのに捨てられてしまう食品のことです。日本の食品ロス量は年間約472万トン、国民1人あたりに換算すると、毎日お茶碗１杯分（103g）を捨てている計算です。このうち、家庭系食品ロス量は約236万トンで、主に「食べ残し」、「手つかずの食品（直接廃棄）」、「皮の剥きすぎなど（過剰除去）」が発生要因です。

「食品ロス」削減に取り組むメリット

（1）生ごみを減らすことで環境への負荷を減らす

食品ロスは大部分が生ごみとして焼却処理されます。生ごみは水分を多く含み燃えにくいため、燃料を多く使用します。生ごみを減らすことで、温室効果ガスの削減に繋がります。

（2）ムダなく食べて食料自給率アップ

日本の食料自給率（カロリーベース）は38％で多くの食料を輸入に頼っています。また、世界の食料需要量は増加傾向にあり、食品ロスが増加すると将来的に十分な量の食料の確保が困難になるおそれもあります。

（3）「もったいない」と思う心を養う

もったいないという言葉には、ものを大切にする気持ちが込められています。大切な資源を使って私たちの元に届いた食料を、きれいに残さず食べることで、もったいないと思う気持ちが養われます。

「食品ロス」削減の取り組みにご協力ください

家庭でできる食品ロスの削減

食べ切れない食材を買わない、食べられる分だけ調理する、食材が傷みにくい保存方法を選ぶ、フードドライブを活用するなどの取り組みを実践しましょう。

てまえどり

すぐに食べる食品を購入する際は、商品棚の手前に置いてある販売期限の迫った商品を積極的に選ぶ「てまえどり」を意識しましょう。

３きり運動

家庭から排出される生ごみの減量のため、水切り、食べ切り、使い切りの「３きり運動」を実践しましょう。

フードドライブキャンペーンを実施します

「もったいないをありがとう」に

「フードドライブ」とは

各家庭で使いきれない未利用食品を持ち寄り、食品を必要とする地域の福祉団体などに寄付する活動です。お持ちいただいた食品は、社会福祉協議会を通じて、市内で子ども食堂を運営する団体や食料の支援を必要としている人へ届けられます。この活動は、食品ロス削減の取り組みにも貢献します。

期　間	10月１日(火)～31日(木)　※日曜・祝日を除く		
場　所	平日 8：30～17：15	10月16日(水)・30日(水) 17：15～19：00	毎週土曜日 8：30～正午
	市役所３階 環境対策推進課・社会福祉課	市役所１階 特設ブース	市役所２階 子ども未来課

寄付の対象となる食品	
① 賞味期限が明記されていて、２か月以上の期限が残っているもの ② 常温保存が可能なもの ③ 未開封の市販品で包装などが破けていないもの	【例】 市販されているお米、レトルト食品、缶詰、乾麺、飲料（お茶、ジュースなど）、カップ麺、菓子類、乳幼児食品など

※フードドライブは、一年を通じて平日の８:30～17:15に、環境対策推進課（市役所３階）で受け付けています。キャンペーン期間終了後も、ぜひ、ご協力ください。

10月は「3R（スリーアール）推進月間」です

詳しくは➡環境センター
☎728-1902

「3R」ってなに？

3RはReduce（リデュース）、Reuse（リユース）、Recycle（リサイクル）の3つのRの総称です。
リデュースは、製品をつくる時に使う資源の量を少なくすることや廃棄物の発生を少なくすること。
リユースは、使用済製品やその部品などを繰り返し使用すること。
リサイクルは、廃棄物を原材料やエネルギー源として有効利用することです。

3Rを生活の中で実践できる具体例

1 マイバックを利用し、無駄な包装を断る。
2 詰め替え容器に入った製品や簡易包装の製品を選ぶ。
3 耐久消費財は手入れや修理をしながら長く大切に使う。
4 利用頻度の少ないものは、レンタルやシェアリングシステムを利用する。
5 耐久性の高い製品や省資源化設計の製品を選ぶ。
6 ごみの分別ルールを守り、資源に分類されるものは資源として排出する。

「燃やせるごみ」の水分を減らしましょう！

燃やせるごみの約4割が「生ごみ」で、その生ごみの約8割が水分と言われています。ごみの重量が重くなればなるほど、処理経費も多くかかります。生ごみの水きりに加え、次の「燃やせるごみに含まれる水分を減らすポイント」を実践することで、大きな効果が期待されます。

燃やせるごみに含まれる水分を減らすポイント

1 **食材を残さず使う。**
根菜類やイモ類、果物、肉、魚などの食品には多くの水分が含まれます。
食品をごみにしないことが、最も重要です。

2 **枝や草は、可能な限り乾燥させる。**
草の入ったごみ袋は水分を多く含み、とても重いです。
草や切った枝などは、乾燥させることで水分量が大きく減ります。

「紙製の容器と包装紙」を出していますか？

ごみ収集日程表の緑色の日は、「紙製の容器と包装紙」です。食品や飲料の入っていた紙の容器やティッシュの紙箱、紙袋などを燃やせるごみとして捨てていませんか？「紙製の容器と包装紙」は、資源として新たな紙製品に生まれ変わりますが、燃やせるごみとして捨てると、焼却後、灰として埋め立て処分になるだけでなく、資源としての循環サイクルが止まってしまいます。経費削減と環境負荷軽減のためにも、分別して排出してください。

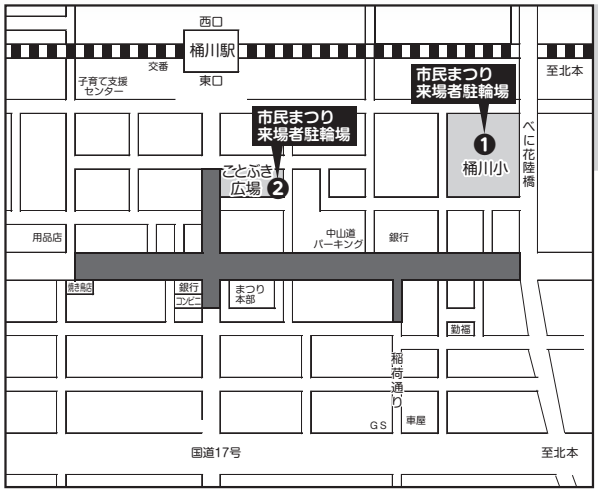
第47回 桶川市民まつりを開催します

詳しくは➡産業観光課☎788−4929

11月３日(日・祝)文化の日を中心に市民まつりが開催されます。たくさんのイベントがありますので、是非お越しください。

まつりの開催に伴い、11月３日(日・祝)午前９時から午後４時30分まで、中山道と駅前通りが、歩行者天国（全面車両通行止め）になります。自転車でお越しになる際は、図❶・❷の駐輪場をご利用ください。

交通規制図



※市民まつり当日は中山道周辺の混雑が予想されます。
※桶川駅東口発着のバスは、西口からの発着となります。
※各会場、駐車場の用意はありません。

と　き	ところ	内　容	
10/27(日)	サン・アリーナ	**スポーツ武道の広場**	各種武道大会・演武
11/3(日・祝)	中山道	**歩行者天国自由の広場**	飲食物販売、フリーマーケット、バザー
		パレード	参加希望団体による行進
		皇女和宮行列	参加希望者による皇女和宮行列の再現 桶川小校庭を午後１時30分出発。お披露目は午後２時頃（中山道パーキング）
	中山道パーキング	**ステージイベント**	桶川高校吹奏楽部コンサートなど
	桶川小学校校庭	**子どもの広場**	子どもたちによるダンスなどの催し
		福祉の広場	福祉団体による手作り品などの販売、バザー、福祉体験、献血コーナー
		農産物即売の広場	地元野菜、桶川牛乳の販売など
	ことぶき広場	**商工の広場**	企業PR、飲食物販売、建設機械展示、AED実技指導、音楽演奏、ダンス

当日、雨天の場合

11月３日(日・祝)の市民まつり開催中止については、当日の午前７時以降、市ホームページやSNSでお知らせします（※**中止の場合のみ**）。

第47回桶川市民まつり

市民まつりに伴い市内循環バスの運行に変更があります

市内循環バスの東10東部工業団地回り、東20おけがわ団地回り、東30小針領家回り、東40神明回りは、臨時ダイヤで運行します。また、発着場所は桶川駅西口になりますのでご注意ください。詳しくは市ホームページをご覧ください。

問合せ▼安心安全課☎788−4927

2024彩の国実業団対抗駅伝競走大会に伴い中山道は交通規制となります

とき▼11月３日(日・祝)の桶川駅前中山道通過予定時刻　午前８時51分～９時７分頃

※応援をする人は、徒歩・自転車などでお越しください。

※交通規制・う回は、現場の警察官の指示に従ってください。

問合せ▼(一財)埼玉陸上競技協会☎771−4248